

ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための会議（概要版）

と き：2018年10月24日（水）

18:00～20:10

ところ：斜里町漁村センター

2階会議室

この会議への参加を要請した団体

- ・ 知床斜里町観光協会 ・ ウトロ地域協議会 ・ ウトロ自治会 ・ 知床ガイド協議会
- ・ 斜里第一漁業協同組合 ・ ウトロ漁業協同組合 ・ 斜里山岳会 ・ 知床自然保護協会
- ・ 知床小型観光船協議会 ・ 自然公園財団知床支部 ・ 公益財団法人知床財団
- ・ 環境省ウトロ自然保護官事務所 ・ 知床森林生態系保全センター
- ・ 北海道オホーツク総合振興局知床分室 ・ 斜里町

（1）会議の趣旨説明

- ✓ 参集者はエコツアー検討会議の参集者及び両漁協。地域で話す場を設定。利用の部分と地域の安全について意見交換したい。

（2）現状認識の共有

- ✓ 知床財団で作成した動画と今回のきっかけとなった雑誌モーリーへ寄稿した記事について説明。
- ✓ SNO 松田社長より、この10年でヒグマが変わってきており、事故がいつ起きてもおかしくない。エリアごとでリスクは異なると思うので、具体的な数字とヒヤリハットのデータを財団から提示してほしい。財団と斜里町の対応のみでは限界があり、根本的にやり方を変えないといけないという提言があった。
- ✓ ウトロ地域協議会 桑島会長より、先日のエコツーリズム検討会議に提出された意見書について、説明を行った。

（3）意見交換（主なものを抜粋）

- ・ 知床でクマを見て感動するビジター、その一方で住民の不安
- ・ 対ヒグマの対応は、既に限界。対人への早急な対策が必要
- ・ デナリ国立公園 野生動物を守るための人間の行動ルールが確立されている
- ・ 来訪する人への教育、世界の国立公園を手本に
- ・ 法的なしくみ、法的根拠が無いことが問題
- ・ ルールお構いなしの釣り客やビジター。全体を網羅する法的根拠が必要
- ・ レンジャーみたいな服を着ることで、法的な薄さをカバーしている
- ・ 公的なルールのもとで知床を楽しんでほしい
- ・ 法根拠がない中でのヒグマ餌やり禁止キャンペーンは、効果があった。事故を起こすと観光サイドは大変。人馴れグマ、本当に増えているのか

- ・人馴れしたヒグマは増加傾向
- ・動物を見て笑顔で写真を撮るからヒグマも人に馴れる。全国で統一した法的規則を作るべき
- ・事故が起きた時の経済的な影響を懸念
- ・強制力を持ったルールのもとで、違反者は退去して貰う
- ・山岳利用、知床の山にだけ登る人は少ない。知床のローカルルールは限界。北海道統一、山岳登山統一のルールが必要。
- ・「知床でヒグマを見られる」という期待
- ・観光船だけでなく「陸路」で安全に見られる場所の設置
- ・知床は「クマ」を見せたいのか、見せたくないのか、意志表示が必要。
- ・野生動物管理の制度化
- ・安全度を高める取り組み
- ・場所によるリスクの度合いが違う。釣り人、知床五湖、道路上、登山道、それぞれ危ないと言うが、度合いが違う
- ・今、急にリスクが高まったと思っていない。以前から知床はリスクが高かったし、急激に高まったとは思わない。
- ・人馴れは現象。国立公園全体で見せるという方向に行くのか。幌別、岩尾別、知床全体が開放宣言、という順番で考えてきた。「見ちゃいけないものだ、見たいけど」という観光客。やりづらさはある。
- ・国立公園内で「人馴れしていいですよ」ということではなく、クマを見ることと両立できる場所。

(4) 今後の予定

- ・考えていることをアイデアとして寄せてほしい。現状把握を行い、他地域の事例も対策に反映したい。今後の進め方については、連絡会議に今回の会議内容を報告した上で、構成団体と協議し決定する予定。後日またその結果を報告する